

平成30年度 自己評価最終評価結果

石川県立錦城特別支援学校

(No.1)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	最終集計結果	分析(成果と課題)	評価
(1) 児童生徒の主体性を引き出すための授業改善と専門性の向上を図る。	① チームティーチングの事前や事後の打合せ等で指導のねらいや支援方法等について十分に共通理解を行い、効果的な指導となるようにする。	チームティーチングの効果的な手法(別途提示)を「十分に実践している」「実践している」と答えた割合  A: 80%以上 B: 60%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	各教員の達成度の割合(単位%) ① 十分に実施している ② 実施している ③ 少し実施している ④ 実施していない  ① ② ③ ④ ①+② 小 76.9 23.1 0 0 100.0 中 18.2 63.6 18.2 0 81.8 高 52.4 42.8 4.8 0 95.2 分 60.0 20.0 20.0 0 80.0 全体 52.0 40.0 8.0 0 92.0  【達成基準】A以上	評価については、チームティーチングにおいて大切にしてほしいことを10項目あげ、実施している項目が8項目以上を「十分実施している」、6項目以上を「実施している」とした。どの学部も80%を達成しA評価となった。数値的には、小学部、高等部は前回(9月)より改善している。各アンケート項目を細かく分析してみると9月のアンケートでは全体的に達成度の高い項目は「授業における各授業者の役割分担が明確になっている」「児童生徒の様子について話し合いを行っている」であった。今回は、「授業内容のねらいを共通理解している」「アイディアの提案や教材教具の開発・製作や改良を行っている」の項目が大幅に改善した。前回達成度の低かった項目、「児童生徒の個別の目標の共通理解を行っている」「支援内容、評価の仕方を確認している」は学部によって温度差はあるものの全体的には改善した。しかし、他の項目の達成度からみれば全体の半分以下であり、今後も重点的に取り組む必要がある。	A 達成
	② 専門性の向上を図り、児童生徒の特性や能力に応じた授業を展開する。	授業参観等で授業内容に満足している保護者や関係機関の割合 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	回答数 ・学校公開(11月6日、7日) 43 授業への満足度(4項目) 96.5%  ・授業参観(1月24日) 31 授業への満足度(4項目) 98%  【達成基準】A以上	①指導内容は児童生徒にとってわかりやすいか、②教員の児童生徒へのかかわりが適切であるか、③使用されている教材などに工夫がみられる、④児童生徒が落ち着いて学習できる環境である、の4点についてアンケートで質問した。4段階のうち「あまり思わない」「思わない」をマイナス評価としたが、②③④の項目について2.2~3.4%のマイナス評価がみられた。また、感想やご意見をたくさん頂いた。アンケートで問うた項目はいずれも授業改善に関係するものである。今後とも継続して取り組んでいく。	A 達成
学校関係者評価委員会の評価	教員アンケートの10項目のなかで「児童生徒の個別の目標の共通理解を行っている」「支援内容、評価の仕方を確認している。」の項目については、教員側からするととても重要な項目であるが、評価は低い。保護者にとっても教員が子どものことをどれだけわかって授業を行っているかを評価する項目である。教員がどんな思いでそれぞれの授業を行っているか保護者にしっかりと伝えていくことが大切である。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	TTの効果的な手法を充分実践しているかのアンケートで10項目を挙げたが本校の弱い項目「児童生徒の個別の目標の共通理解を行っている」「支援内容、評価の仕方を確認している。」について次年度の学校研究において取り組んでいく。				

平成30年度 自己評価最終評価結果

石川県立錦城特別支援学校

(No.2)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	最終集計結果	分析（成果と課題）	評価
(2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路支援の充実を図る。	① 錦城版キャリア教育プログラムを個別の教育支援計画等に活かし、児童生徒一人一人に1つ以上具体的な実践を行う。	キャリア発達面の個別設定の項目で向上が見られた児童生徒の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	達成度の割合(単位%) 小 100.0 中 87.5 高 90.0 全体 91.9 【達成基準】B以上	この項目は「錦城版キャリア教育プログラム」を教員が意識して活用するために設けたものである。教員が児童生徒一人一人のキャリア発達を育成する具体的な実践を行い、個別のねらいに対して向上が見られたかどうかで達成度を判断した。小学部、中学部、高等部とも達成基準を満たしている。しかし中学部についてはまだ90%に達していない。今後も児童生徒一人一人に応じた具体的な実践をより一層続けていく。	A 達成
	② 毎月のあいさつ運動等を通し、教員自らが見本を示すことで、様々な場面であいさつができる児童生徒を育てる。	あいさつの仕方に見られた児童生徒の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	達成度の割合(単位%) 小 75.0 中 70.6 高 90.0 全体 81.0 【達成基準】B以上	チェックシートを用い6月と2月を比較して、個人の向上の度合いを確認して評価した。全体では81%なので、達成基準に達した。しかし小学部、中学部はまだ80%に達していない。高等部は就労を見据えて生徒も教員も意識して取り組んでいると思われるが、小学部や中学部から児童生徒の能力に応じたあいさつをする力を指導する必要があると思われる。毎月のあいさつ運動だけでなく、日頃から、教員がチェックシートの項目を意識して指導することが大切であると思われる。今後も継続して取り組みを進めていく。	B 達成
	③ 進路の手引きを作成して進路情報の提供を充実させ、その活用を図る。	進路の手引きの内容について、わかりやすく参考になったかどうか A：十分参考になった B：やや参考になった C：あまり参考にならなかった D：参考にならなかった	A B C D 小 37.4 50.0 6.3 6.3 中 50.0 35.7 14.3 0 高 38.5 57.7 3.8 0 全体 41.1 50.0 7.1 1.8 【達成基準】A+B以上が80%	進路の手引きは、今年度新しく作成したもので、これまで情報として進路だよりや懇談などで伝えていたものを一冊の冊子にまとめたものである。保護者への配付が年末近くになり説明期間は十分ではなかったが、保護者からの参考になったというアンケート結果が多く寄せられた。今後は、毎年改定を重ねてより良い内容になるようにしていきたい。	91.1% 達成
		進路の手引きや研修会等により進路情報の知識量について A：かなり増加した B：増加した C：あまり変わらなかった	A B C 小 23.1 69.2 7.7 中 0 90.9 9.1 高 60.9 39.1 0 分 0 100.0 0 全体 32.7 63.5 3.8 【達成基準】Aが70%以上	進路の手引きは教員にも配付し、教員対象の研修会はその内容についての解説、技能検定の内容による体験型の2つの内容で実施した。配付等が遅くなったこともありA（かなり増加した）の割合には結びつかなかったが、次年度以降は、年度当初に配付し、年間を通して活用できるようにしていきたい。また、毎年内容を見直し改訂を進めて、一層活用できるようにしていきたい。	32.7% 未達成
学校関係者評価委員会の評価	一般就労された方は「自分はこちらに行きたい」というのがあって就労につながったのか。「彼はこれができるだろう」「こういうのが得意だ」という周りの目線で就労が決まっていなかったらどうか。彼らには職業選択の決定権はどこまであるのかということが、そろそろ特別支援学校の領域においても検討する時代ではないか。彼らに仕事の情報をどうやって伝えていくのかということを進路の先生には開拓して、2か年、3か年にわたる進路決定のスタンスをとってほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	本人の進路決定という観点はとても大切である。特に高等部3年間という期間は必ずしも長くなく、必要とされる進路学習の内容も多岐に渡ることから、時間の確保は悩みである。学習指導要領の改訂に伴う教育課程の見直しの際に十分検討していきたい。				

平成30年度 自己評価最終評価結果

石川県立錦城特別支援学校

(No.3)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	最終集計結果	評価	
(3) 児童生徒の安心・安全に配慮した学校づくりを推進する。	① 危機管理マニュアルやヒヤリハット報告等を十分に活用して、事故防止や健康管理を行う。	学校生活での危機管理マニュアルやヒヤリハット事例、個々の児童生徒の安全に関する配慮事項考慮して、指導・支援を行っている。  A：とてもあてはまる B：あてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない	各教員の達成度の割合 (単位%) A B C D 小 15.4 84.6 0 0 中 16.7 75.0 0 8.3 高 30.4 69.6 0 0 分 60.0 40.0 0 0 全体 26.4 71.7 0 1.9 【達成基準】 A+Bの割合100%	A+Bの割合が100%には達していないが98.1%と高い割合を示している。しかし、Aの割合がどの学部もまだまだ低い。また、D評価もある。今後も危機管理マニュアルやヒヤリハット報告等を十分活用し、個々の児童生徒の安全に関する配慮事項を考慮して指導支援を行うよう取り組んでいく。	98.1% 未達成
	② 児童生徒の様子等を職員間で共通理解を図り、小さなトラブルを見逃さずに対応していじめの未然防止に努める。	いじめの未然防止のため小さなトラブルを見逃さずに対応している。  A：とてもあてはまる B：あてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない	各教員の達成度の割合 (単位%) A B C D 小 46.2 53.8 0 0 中 25.0 75.0 0 0 高 39.1 60.9 0 0 分 60.0 40.0 0 0 全体 39.6 60.4 0 0 【達成基準】 A+Bの割合100%	A+Bの割合が100%に達している。児童生徒の気になる行動に対して「いじめ兆候チェックシート」でアンケートを行っている。小さなことでも気になるところをチェックすることで、いじめにつながらないよう取り組んでいることが、この評価となったと思われる。しかし、Aの割合が39.6%と半分には達していない上に前期よりもAの数値が減っている。今後は、Aが増えるようこれまで以上に生徒の様子を見守るよう取り組んでいく。	100% 達成
学校関係者評価委員会の評価	「危機管理マニュアルやヒヤリハット事例、個々の児童生徒の安全に関する配慮事項を考慮して指導・支援を行っているか」の教員対象のアンケートにおいて、評価Dがあるが、なぜそのような結果が出たか検討すべきことである。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	D評価があったことについて、これまで以上に職員に対して啓発を続けていく。また、軽微事故が事故ではなく、ヒヤリハットであると思っっている職員がいると思われることもある。常に危機意識をもつように職員に周知していく。				

平成30年度 自己評価最終評価結果

石川県立錦城特別支援学校

(No.4)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	最終集計結果	分析(成果と課題)	評価
<p>(4) 本校の教育活動の情報発信や専門性を活かして特別支援教育のセンター的役割を推進する。</p>	<p>① 本校職員の専門性を活かした校内研修会を企画し、地域の小・中学校に参加を呼びかけ、特別支援教育の充実を図る。</p>	<p>研修会内容が参加者の特別支援教育の教育実践に「とても役立つ」と答えた割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	<p>年間を通して アセスメント講習会(相談支援課) 参加 21 とても役立つとの回答 76.2%  ICT活用研究会①(チームICT) 参加 6 とても役立つとの回答 66.7% ICT活用研究会②(チームICT) 参加 1 とても役立つとの回答 100.0%  【達成基準】B以上</p>	<p>アセスメント講習会については、実技を設けたことで困っている子どもの様子を体験し今後の支援に活かせるとの回答が多かったこともあり達成基準に達した。今後も地域のニーズに合った研修会を実施していく。ICT活用研究会①では、紹介した機能やアプリをぜひ使ってみようという意見が多かったが、環境が整っていないためすぐに試みることは難しいようでこの結果になったと思われる。どの講習会も役立つとの意見が100%であった。ICT活用研究会②は時期的に参加が難しかったようで1名の参加者のみであった。今後は、開催時期を考えつつ、研修会の企画を行っていきたい。</p>	<p>B 達成</p>
	<p>② ホームページで児童生徒の活動の様子を発信することにより特別支援教育の理解啓発を図る。</p>	<p>各学部が1年間に行ったホームページの更新の回数 A：40回以上 B：30回以上 C：20回以上 D：20回未満</p>	<p>【達成基準】B以上 1月25日段階の各部の更新回数 ・小 43 ・中 31 ・高 37</p>	<p>学部により更新回数にばらつきがあるが、どの学部も30回以上と達成基準を満たしている。学部行事だけでなく、日常の学習活動の様子を発信等を行うことで本校への理解啓発の一助になったと考える。また、学部だけでなく、学校行事、よさこい等の更新も継続して行った。トップページに体験入学やICT活用研究会のお知らせ等を掲載する等外部に対する情報発信も行った。</p>	<p>B 達成</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<p>本校の取り組みについて今後も継続して取り組んでいって欲しい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>		<p>研修会を地域の学校に公開したことについては、大変評価が高かった。また、ホームページの発信についても継続して取り組んでいく。</p>			

## 平成30年度 自己評価最終評価結果

石川県立錦城特別支援学校

(No.5)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	最終集計結果	分析（成果と課題）	備考																														
<p>(5) 教職員それぞれの立場で働き方改革の意義を理解して取り組みを進める。</p>	<p>① ワークライフバランスを考え、定時退校日を意識し、時間の使い方を改善して業務を行う。</p>	<p>定時退校日等を意識して、時間の使い方を改善して業務を行っている。各教員の達成度の割合(単位%)</p> <p>A：とてもあてはまる B：あてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない</p>	<p>各教員の達成度の割合(単位%)</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td>小</td> <td style="text-align: center;">15.4</td> <td style="text-align: center;">61.5</td> <td style="text-align: center;">23.1</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td style="text-align: center;">16.7</td> <td style="text-align: center;">75.0</td> <td style="text-align: center;">8.3</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td style="text-align: center;">17.4</td> <td style="text-align: center;">78.3</td> <td style="text-align: center;">4.3</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td style="text-align: center;">60.0</td> <td style="text-align: center;">40.0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td style="text-align: center;">20.8</td> <td style="text-align: center;">69.8</td> <td style="text-align: center;">9.4</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> </table> <p>【達成基準】 A+Bの割合100% ※勤務時間調査結果の分析も加味して評価する。</p>		A	B	C	D	小	15.4	61.5	23.1	0	中	16.7	75.0	8.3	0	高	17.4	78.3	4.3	0	分	60.0	40.0	0	0	全体	20.8	69.8	9.4	0	<p>全体として90.6%と中間評価よりも数値は上がったが、まだ達成基準に達していない。特に小学部ではあまりあてはまらないとの回答が2割いる。職員の勤務時間調査では4月、5月はまだ昨年度よりも多かったが8月、9月は減少傾向にある。「メリハリをつけて仕事をする。」「仕事の優先順位をつける。」など時間の使い方を意識して取り組むようになったとの意見がある一方、「業務が多く勤務時間内に終わらせることは難しかった。」といった意見も多く見られた。校内においても若手等で残業時間が多い傾向がみられる。業務の見直し等も含めて取り組みを続けていく。</p>	<p>90.6% 未達成</p>
	A	B	C	D																															
小	15.4	61.5	23.1	0																															
中	16.7	75.0	8.3	0																															
高	17.4	78.3	4.3	0																															
分	60.0	40.0	0	0																															
全体	20.8	69.8	9.4	0																															
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<p>今後も取り組みを継続、充実させていって欲しい。</p>																																	
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>		<p>効率的な会議の持ち方、若手育成による技能等の継続、業務の見直しなども含めて、今後も継続して取り組みを進めていく。</p>																																	